

## 1. 総論

## 【総括判断】「管内経済は、持ち直している」

項目	前回（7年10月判断）	今回（8年1月判断）	前回比較
総括判断	持ち直している	持ち直している	➡

(注) 8年1月判断は、前回7年10月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

## (判断の要点)

個人消費は、持ち直している。生産活動は、弱含んでいる。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。観光は、緩やかに拡大しつつある。

## 【各項目の判断】

項目	前回（7年10月判断）	今回（8年1月判断）	前回比較
個人消費	持ち直している	持ち直している	➡
生産活動	一進一退の状況にある	弱含んでいる	➡
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡

設備投資	7年度は減少見込み	7年度は増加見込み	➡
観光	緩やかに拡大しつつある	緩やかに拡大しつつある	➡
企業収益	7年度は増益見込み	7年度は減益見込み	➡
企業の景況感	「上昇」超となっている	「下降」超となっている	➡
住宅建設	弱い動きとなっている	弱い動きとなっている	➡
公共事業	前年を上回る	前年を下回る	➡

## 【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、持ち直していくことが期待される。ただし、今後の物価動向、米国の通商政策、金融資本市場の変動等の影響に注意する必要がある。

## 2. 各論

### ■ 個人消費 「持ち直している」

スーパー販売は、総菜や冷凍食品などの飲食料品が堅調であり、前年を上回っている。コンビニエンスストア販売は、弁当や総菜などの飲食料品の需要が引き続き堅調であり、前年を上回っている。ドラッグストア販売は、医薬品や季節品が好調であったほか、インバウンドも堅調に推移しており、前年を上回っている。百貨店販売は、国内客への販売が堅調であるほか、インバウンド向けの販売も底堅く推移しており、前年並みとなっている。家電販売は、パソコンやゲーム機の売行きが引き続き好調であるほか、スマートフォンの売上げが増加したことから、前年を上回っている。ホームセンター販売は、少雪などの影響により、除雪用品の動きが鈍かったほか、暖房器具の売行きに伸び悩みがみられたことから、前年を下回っている。乗用車販売は、新型車投入などにより回復がみられるものの、納期長期化を背景に伸び悩み、前年並みとなっている。

(主なヒアリング結果)

- 物価高により買上点数は減少傾向にあるが、即食簡便な総菜、冷凍野菜などは好調で、年末年始にはカニや肉類の販売が伸びるなど、メリハリのある消費動向となっている。(スーパー)
- 売上げの増加は値上げの影響が大きいが、弁当、総菜の売行きは引き続き堅調である。クリスマスケーキやおせち等は前年並みの売上げだが、少量の商品が好まれた。(コンビニエンスストア)
- インフルエンザ等が例年より早く流行し、医薬品の販売が増加した。また、気温の低下に伴い、ハンドクリームなど保湿商品の売行きも好調となっている。(ドラッグストア)
- 国内客への販売は、食料品等を中心に堅調となっている。インバウンドは、中国人客が減少しているものの、東南アジアからの来店が増加しており、売上げを下支えしている。(百貨店)
- パソコンの売行きは好調であり、既存 OS のサポート終了に伴う買換え需要の継続や、半導体メモリーの価格高騰による本体価格の上昇を見据えた駆け込み需要がみられる。(家電量販店)
- 10月は暖房器具の販売が好調であったものの、その後冬の本格化が遅れたことから需要の停滞がみられたほか、除雪用品の出足も鈍かった。(ホームセンター)
- 新車価格は上昇傾向だが販売は好調で、顧客の購買意欲に大きな変化はない。ただし、工場から提供される新車台数に制限があるため、人気車種は納期が長期化しており、販売機会を逃してしまうケースがある。(自動車販売)

### ■ 生産活動 「弱含んでいる」

生産活動は、「鉄鋼」や「金属」などが減少しており、全体では弱含んでいる。

- 鋼材メーカーの高炉トラブルにより原料の調達が滞ったことから、今期生産が大幅に縮小した。(鉄鋼)
- 例年と比べ、中規模のマンションや商業ビルの着工数が少なく、鉄骨、建具等の生産量が低調に推移している。(金属)
- 今年度の秋鮭漁獲量は過去最低水準であり、加えて円安で輸入コストもかさむため、原料確保が困難となり生産量が減少した。(食料品)
- 国内、海外向けともに受注は引き続き堅調であり、生産動向は安定している。(輸送機械)

### ■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

雇用情勢は、人手不足を背景として企業の求人意欲が高い状況にあり、緩やかに持ち直している。

- ハローワークのほか、民間求人サービス等の活用や応募条件の緩和により採用間口を広げているが、応募がほとんどない。転職に伴う人材の流動化が進んでおり、長期的な人材確保が難しくなっている。(金属)
- 採用競争の激化を踏まえ、企業概要や業務内容のみではなく北海道で働くことの魅力についても SNS 等で道内外に発信し、人材確保に取り組んでいる。(建設)
- 最低賃金の過去最大の引上げを受けて、人件費増加により求人を控えている動きもみられており、動向を注視したい。(公的機関)

- **設備投資 「7年度は増加見込み」** (全産業) 「法人企業景気予測調査」7年10-12月期
    - 製造業では、「食料品」などが増加していることから、全体では増加見込みとなっている。
    - 非製造業では、「運輸業、郵便業」などが増加していることから、全体では増加見込みとなっている。
- 老朽化に伴う維持更新のほか、生産性向上に向けた投資を継続して行い、コスト削減につなげている。(食料品)
  - ICカード決済機器の更新や社員寮の建設に加え、省力化を目的とした車検システム、洗車機、リフトを順次導入している。(運輸)
  - 建物の改修や機械の導入などの作業効率化や省力化につながる投資を行ったことで、従業員数は変わらないが、人手不足感はなくなった。(農業、林業)
- **観光 「緩やかに拡大しつつある」**
    - 観光は、来道客数、外国人入国者数ともに前年及びコロナ前を上回っており、緩やかに拡大しつつある。
- 北海道観光の人気がコロナ前と比較しても高まっていることから、機材の大型化や増便を行っており、来道客数が前年を上回る状況が続いている。(運輸)
  - インバウンドについては、韓国、台湾、香港のほか、直行便の増便を背景に東南アジア圏からの観光客が増加しているため、前年を上回っている。(旅行)
  - 足下の予約状況については国内客、インバウンドともに堅調。中国からの観光客は、団体客が減少している一方で大半を占める個人客は堅調であり、引き続き冬季シーズンの需要は旺盛だと見込んでいる。(宿泊)
- **企業収益 「7年度は減益見込み」** (全産業) 「法人企業景気予測調査」7年10-12月期
    - 製造業では、「輸送用機械器具」などが減益となっていることから、全体では減益見込みとなっている。
    - 非製造業では、「運輸業、郵便業」などが増益となっていることから、全体では増益見込みとなっている。
  - **企業の景況感 「「下降」超となっている」** (全産業) 「法人企業景気予測調査」7年10-12月期
    - 企業の景況判断BSIは、全産業では「下降」超となっている。  
なお、先行きは、「下降」超で推移する見通しとなっている。
  - **住宅建設 「弱い動きとなっている」**
    - 住宅建設は、分譲住宅は前年を上回っているものの、持家、貸家は前年を下回っており、弱い動きとなっている。
  - **公共事業 「前年を下回る」**
    - 公共事業を前払金保証請負金額でみると、第3四半期は、国、市町村が前年を上回っているものの、独立行政法人等、北海道が前年を下回っており、全体では前年を下回っている。
  - **金融 「貸出金残高は前年を上回る」**
  - **企業倒産 「前年を上回る」**
  - **消費者物価 「前年を上回る」**